

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (5) 中学校・高等学校
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	てしおちょうりつてしおちゅうがっこう 天塩町立天塩中学校 (81人) ほっかいどうてしおこうとうがっこう 北海道 天塩 高等学校 (144人)			学校・地域の特色及び実態等 ・天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており，小・中学校間で研究協議等が行われてきた。 ・平成 26 年度からは高等学校も協議会に参加し，各教科指導に係る研究協議に加わっている。 ・これまで，小・中学校，高等学校で年 1 回の研究授業や研究協議を行い，教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んでいる。	
所在地 (電話番号)	〒098-3312	北海道天塩郡天塩町字川口 5705 番地の 1	天塩町立天塩中学校 (電話番号 01632-2-1522)	〒098-3393	北海道天塩郡天塩町字川口 1464 番地の 4 北海道天塩高等学校 (電話番号 01632-2-1108)
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://teshiojhs.jimdo.com/ (天塩町立天塩中学校) http://www.teshio.hokkaido-c.ed.jp/ (北海道天塩高等学校)				
研究のキーワード	「12 か年指導計画」「乗り入れ授業 (出前事業)」「教科ミーティング」 「天塩町だからできること，天塩町でなくてもできること」				
研究結果のポイント	○ 1 年目の取組を継続し，教科ミーティング，乗り入れ授業 (出前授業)，研究授業 (授業参観) の積極的な実施により，教員の授業改善に対する意識向上及び指導方法等の工夫改善が推進された。 ○ 各教科で課題を明確化し，発達段階に応じた小・中・高の 12 か年を見通した指導計画を作成することができた。 ○ 生徒の実態を踏まえた指導方法の工夫改善等により，主体的に学ぶ生徒及び学習習慣が定着した生徒が増加した。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

義務教育段階における学習状況を踏まえた，高等学校における学習指導や学習評価の改善・充実，及び系統性のある指導計画の作成に関する研究

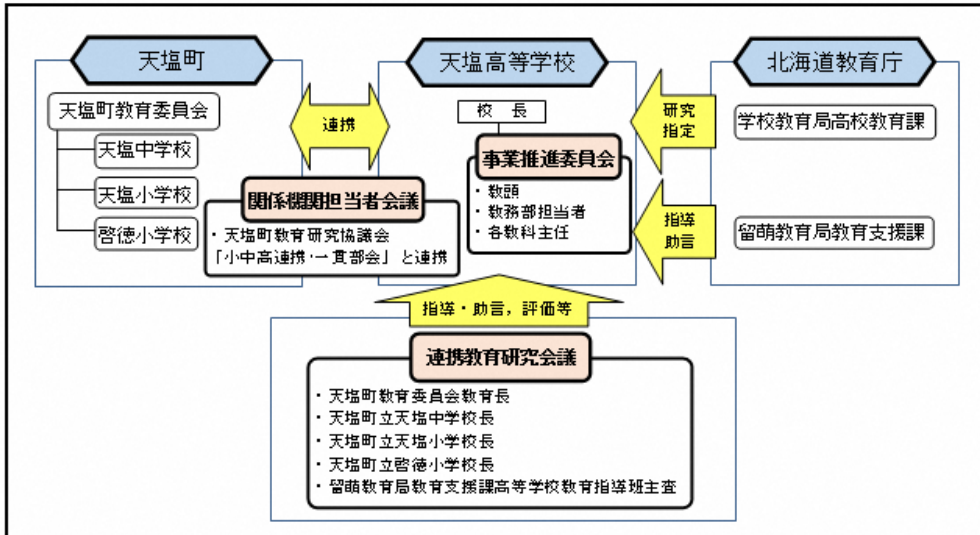
(2) 研究主題設定の理由

天塩町の中学校の卒業生の約 7 割が天塩高等学校に進学しており，全校生徒の約 4 割に上ることから，生徒の確かな学力の向上，主体的に学ぶ態度の育成及び学習習慣の定着を図るためには，中・高間で連絡会議等を持ち，各学校の教育計画について情報交換したり，中・高において発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成したりすることは効果的であると考えます。

天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており，小・中間で研究協議等が行われてきた。平成 26 年度からは高等学校も協議会に参加し，小・中・高で年 1 回の研究授業や研究協議を行い，教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んできたところである。しかし，各校種 1 回のみの実施であり，研究協議も当日の研究授業を対象としているなど，各校種の指導や評価の方法に関する情報共有や，系統性のある指導の在り方等についての話し合いは十分ではなかった。

そこで，これまでの成果に加え，高等学校が主体となって中学校における学習状況 (指導方法，評価方法等) の実態を研究して，生徒の学習上の課題等を中学校と共有し，中・高の系統性を踏まえた指導及び評価の方法や指導計画の改善・充実を図ることが，校種間の円滑な接続を図る上で効果的であると考え，研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> 天塩町教育研究協議会総会・第1回研修参加(4月12日) 第1回関係機関担当者会議(6月3日) 第1回事業推進委員会(6月7日) 天塩町教育研究協議会第2回研修参加(6月17日) 事前アンケート(教員)実施(6月17日) 天塩町教育研究協議会第1回小中高連携・一貫教育推進部会全体会参加(7月21日) 第2回関係機関担当者会議(10月5日) 教育課程研究指定校事業(校種間連携・中高連携)公開研究会(10月13日) 第2回事業推進委員会(11月7日) 第3回関係機関担当者会議(11月14日) 天塩中学校校内研究授業発表会参加(11月21日) 中高一貫教育における先進校視察(広島県)(3月15日-17日) 第4回関係機関担当者会議(3月22日)
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> 第5回関係機関担当者会議(4月5日) 第3回事業推進委員会(4月7日) 天塩町教育研究協議会総会・第1回教科部会参加(4月19日) 第4回事業推進委員会(6月6日) 天塩町教育委員会研究協議会第2回研修参加(6月16日) 第6回関係機関担当者会議(9月6日) 中高一貫教育における先進校視察(静岡県)(10月18日-20日) 第7回関係機関担当者会議(10月31日) 教育課程研究指定校事業(校種間連携・中高連携)公開研究会(11月7日) 第5回事業推進委員会(12月予定) 第8回関係機関担当者会議(12月予定) 中高一貫教育における先進校視察(北海道内)(1月予定) 天塩町教育研究発表会(天塩町教育研究発表会と合同で実施)(2月2日) 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会(2月7日)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施
- イ 教科ミーティングの実施
- ウ 先進校の視察及び他地域との意見交換
- エ 連携教育研究会議による連携事業の検証と評価
- オ 小・中・高での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施

(2) 具体的な研究活動

- ア 教科指導等の工夫改善に向けた取組の実施
 - ・各校種の系統性を踏まえた指導及び評価の方法や指導計画の改善・充実をテーマとした校種

間連携による研究授業や研究協議等を積極的に行い、「12 か年指導計画」を作成するなど、教科指導等の工夫改善に取り組んでいる。

イ 「教科ミーティング」の実施

- ・天塩町研究協議会と連携した「教科ミーティング」を実施し、各教科での課題を明確化し、校種間で共有している。
- ・高等学校から中学校に対する「乗り入れ授業（出前授業）」を9回、中学校から高等学校に対する「乗り入れ授業（T・T授業）」を4回実施した。生徒の取組状況を把握するとともに、授業改善に向けた情報を共有している。

ウ 先進校の視察及び他地域との意見交流

- ・静岡県内の2校の中高連携校を訪問し、長年に渡り連携を継続している組織体制を視察し、天塩町における校種間連携の組織体制と比較して、校種間連携を促進する組織体制等について検討した。
- ・北海道で同じく校種間連携事業を行っている、北海道長万部高等学校・長万部町立長万部中学校との意見交換を実施した。

エ 小・中・高での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施

- ・研究授業や研究協議、教科ミーティングで協議された課題を明確化し、発達段階に応じた、系統的な教科指導を行うための「12 か年指導計画」を作成している。

オ 連携教育研究会議の実施（天塩町教育研究協議会、天塩町教育研究発表会と合同で実施）

2年間の連携事業を検証・評価するとともに、今後の取組について協議している。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

○ 中学校及び高等学校における指導方法及び評価方法の改善充実

- ・平成28年度からの研究指定校事業により、以前は年1回しか開催されていなかった研究授業や研究協議が30回実施され、校種間の連携が充実した。
- ・教科ミーティングを通して、天塩町の子供たちに「どのような力を付けさせるか」を考え、課題を明確にし、発達段階に応じた「12 か年指導計画」を作成した。それにより教員が小学校から中学校、中学校から高等学校へのつながりを意識した系統的な指導を行うようになった。
- ・教職員アンケートで「教職員にとって有益」と回答した割合が大幅に増加した。経験が少なく、教科外の指導を行っている教員も多いが、研究授業や研究協議、乗り入れ授業を通して、専門的な授業の参観や日頃の教科指導等の悩みを相談することができるようになるなど、研修環境が整備されたことにより、中学校と高等学校の教員が校種間連携の意義を理解し、積極的に取り組むようになったからだと考えられる。

【教職員アンケートより】小・中・高の教職員から回答

《校種間連携における意識調査》

■校種間連携の有益さについて（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合）

質問項目	H28	H29
1 校種間連携は自校の生徒にとって有益だと思いますか。	94.3%	91.7%
2 校種間連携は自校の教職員にとって有益だと思いますか。	82.9%	97.2%

《教科指導の工夫改善について》

- ・小学校において、中学校の学習指導要領を確認し、小学校で身に付けるべき知識・技能、既習事項を精査することにより指導計画を作成している。
- ・高等学校において、中学校の教科書を確認し、重点的に取り組むポイントを精選している。
- ・高等学校において、中学校での既習事項を確認し、必要に応じて学び直しをするとともに、中学校における既習事項を踏まえた学習となるよう指導計画を作成している。
- ・各校種において、小6から中1への接続、中3から高1への接続（ギャップの解消）を考慮している。

○ 教科指導等の工夫改善による生徒の変容

【生徒アンケートより】

《学習習慣の定着》

■学習意欲・時間について（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合）

[平成28年度及び平成29年度の高等学校第1学年が回答]

- ・高校入学前に比べ学習意欲が高まった
- ・高校入学前に比べ授業以外の学習時間が増えた

年度	割合
H28	80.0%
H29	88.3%

年度	割合
H28	67.5%
H29	68.6%

・授業のある（平日）平均1日あたりの学習時間

	ほとんどしない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上
H28	35.0%	27.5%	22.5%	12.5%	2.5%
H29	21.6%	13.7%	43.1%	21.6%	0.0%

- ・平成28年度に比べ平成29年度の高等学校1学年の生徒の平日の学習時間が増加した。平成28年度の高等学校第1学年の生徒に対し、平成29年度の高等学校第1学年の生徒は、中学3年生からの研究指定校事業により、各校種での学習状況を踏まえた興味・関心のもとせ方について各教員が工夫するなどの取組をしたことなどにより、学習意欲が高まり、家庭学習に取り組むようになったと考えられる。

《主体的な取組》

- ・中学生を対象にした「平常時の授業」と「乗り入れ授業」に対する意識調査では、興味・関心や主体的な取組について肯定的な回答をした生徒が「乗り入れ授業」の方が多かった。このことは、時々実施する「乗り入れ授業」が生徒の意欲を喚起しているためだと考えられる。
- ・「乗り入れ授業」を行う前に比べ、高校生では授業に対する興味・関心や主体的な取組について肯定的な回答をした生徒が増えた。このことは、本研究指定校事業の「乗り入れ授業」を通して、中学校の授業観察から「目標やねらいの持たせ方」について教員が意識して授業改善に取り組むようになったからだと考えられる。

■授業に対する意識（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合）
[中学校第1学年及び第3学年が回答]

質問項目	平常時の授業	乗り入れ授業
1 前回の授業内容を復習してから、授業にのぞんでいる。	38.9%	55.8%
2 授業中に発言する機会があれば、積極的に発言している。	66.7%	48.1%
3 毎回の授業の目標やねらいを理解して授業に取り組んでいる。	64.8%	71.2%
4 毎回授業に興味をもつことが多い。	51.9%	84.6%

■授業に対する意識（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合）
[平成28年度の高等学校1・2学年と平成29年度の高等学校2・3学年が回答]

質問項目	H28	H29
1 前回の授業内容を復習してから、授業にのぞんでいる。	46.1%	36.0%
2 授業中に発言する機会があれば、積極的に発言している。	42.7%	47.2%
3 毎回の授業の目標やねらいを理解して授業に取り組んでいる。	64.0%	71.9%

● 研究の課題

- ・研究主題の設定理由に「生徒の学力の向上」「主体的に学ぶ態度の育成」「学習習慣の定着」がある。2年間の校種間連携事業の成果を生徒の学力の向上に結びつけられる取組が必要である。
- ・各学校において、教員の短い間隔での異動や期限付教員が多いことなどによる、連携事業の継続性が課題である。今後も連携教育会議等を通して、組織体制の構築を推進することが必要である。
- ・「12か年の指導計画」を校種間で共有することを通して、小・中・高を通じて目指すべき生徒像を確立し、校種間連携の取組が、地域や各学校の教育ビジョンにどのように位置付くのかを明確化する必要がある。
- ・教科横断的な指導ができる体制を構築し、生徒の目線に立った指導、地域の実態に即した取組を継続する必要がある。

4 今後の取組

- ア 主体的に学ぶ態度の育成、学習習慣の定着に向けた校種間連携の更なる充実
- イ 「生徒の学力の向上」をテーマとした校種間連携の取組の推進
- ウ 地域の実態を踏まえた、校種間連携を継続するための組織体制の構築
- エ 教科以外の取組や教科横断的な取組における校種間連携の検討
- オ 連携教育研究会議による評価